

研究・調査報告書

報告書番号	担当
328	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake and risk of thyroid cancer in the NIH-AARP Diet and Health Study. NIH-AARP Diet and Health Study を用いたアルコール摂取と甲状腺癌の関係	
執筆者	
Meinhold CL, Park Y, Stolzenberg-Solomon RZ, Hollenbeck AR, Schatzkin A, Berrington de Gonzalez A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Br J Cancer. 2009 Nov 3;101(9):1630-4. Epub 2009 Sep 29.	
キーワード	
甲状腺癌, アルコール摂取, コホート研究, 疫学	
要 旨	
<p>目的： いくつかの信頼性における研究は、アルコールは女性の甲状腺癌のリスクを減少させると示唆しているが、男性ではその効果は不明である。そこで本研究では、292,000 人の男性を含む 490,000 人以上の US の大規模集団におけるアルコール摂取と甲状腺癌およびそのサブタイプのリスクの関係について分析した。</p> <p>方法： 1995 年から 1996 年におこなわれた大規模前向き調査 NIH-AARP Diet and Health Study の対象者 567,169 人(50-71 歳)から、非黒色腫皮膚癌を除く一般癌を有する者、代理人による回答の者、極度なカロリー摂取者、死亡記録から癌を特定した者などを除く 490,159 人を本研究の分析対象とした。アルコール摂取は、質問紙に自己申告されたビール、ワイン、アルコール飲料の摂取を用いて、アルコールと甲状腺癌の関係を分析した。</p> <p>結果： 7.5 年(中央値)以上の追跡で男性 170 人、女性 200 人が甲状腺癌を発症した。男女合計で見ると 1 日 2 杯以上と飲酒なしの相対リスクは、0.57 (95%CI 0.36-0.89, Ptrend=0.01) だった。</p> <p>結論： 本研究の結果より、男女ともに、より多いアルコール消費量は、甲状腺癌のリスクを減少させることがわかった。甲状腺癌においてアルコール消費は防御的な役割を担っていることが示唆された。</p>	